

(1)



雲晴

お盆号

「雲

晴」第四十七号

令和五年七月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六-五
電話 (03) 3627-3415
FAX (03) 5699-5915

釈尊のことば

法句経に学ぶ 14

神田寺住職 友松浩志

ことばをつつしみ

意をととのえ

身に不善を作さず

この三つの形式によりて

おのれをきよむべし

かくして

大仙の説ける道を得ん

法句経 二八一



少しコロナも落ち着いて、日常の生活が戻って帰っています。お祭りや、いろいろなイベントが復活すると、何だか心がウキウキしてきます。マスクを取って、深呼吸する気持ちの良さ、人の顔が分かる安心感を感じます。あたり前だったことが禁止されて、初めてあたり前の有り難さに気づくものです。

ここに取り上げた「法句経」も、ごくあたり前のことを言っています。正しい言葉を使い、正しい気持ちを持ち、正しい行ないをすることこそ、仏さまの説く教えに生きることであるという教えです。仏教では、これを身口意の三業を清める教えとして尊んでいます。相手の気持ちを考えた気持ちの良い言葉は、人の心を穏やかにします。嘘のない、真っ直ぐな気持ちは、相手を安心させ、和やかな関係をつくり出します。そして、相手を害さない正しい行動は、何よりも幸福な社会をつくり出します。

コロナが一段落して、多くの人が集まるようになってきました。社会にも明るさ見られるようになりました。とはいえ、単にもとに戻り、以前に戻すのではなく、あたり前のことを大切にしながら、より成長した、前向きな社会をつくり出していければ、より意味あるように思います。

唱歌のふるさと 童謡のくに ⑮

著：佐山哲郎

シャンソン興隆

十五世紀頃、フランスで発生したといわれるシャンソンは庶民の歌となつて今もお歌い継がれていくが、日本への移入は昭和四年、宝塚音楽学校の白井鉄造が持ち帰つたのだ。

以前この稿でも軽く触れたことがあるが、モンパリー すみれの花 咲く頃 パリの屋根の下 を田谷力三がビクターレコードに吹き込んだ。昭和八年、ルネ・クレール 監督の映画「パリの屋根の下」が日本で封切られ、シャンソンは

大流行のの兆しを見せた。

オペラ歌手の佐藤美子・宝塚出身の橋かほり、葦原邦子なども歌つたがレコードで売れたのは同一年淡谷のり子の「暗い日曜日」である。この歌を聴いて自殺者が出たため、一時発売が禁止されたというから凄く影響力だ。

昭和二十八年、ダミアの来日をもつて日本のシャンソンは復活した。その二年後にイベツトジロー 来日。そこで東京シャンソン協会が発足した。菊村紀彦、宅孝二、青山梓、野上彰、ピシヨップ節子、

らが理事となつた。

一方で高木東六を院長とする、エコーレドシャンソンという学校ができて芦野宏、淡谷のり子、はその講師となつた。

ジャズ喫茶に対抗するようにシャンソン喫茶が現れ、銀座二丁目のシャン。渋谷道玄坂上の十字路で紅茶を飲みながらライブを楽しむ人々が増えたのである。他にラ・セーヌ、銀巴里、サロニ日航、は新人歌手の登竜門。越路吹雪、高英男、旗照夫、丸山明宏などを輩出した。

華

花ひらひて
實をむすぶ 好胤



③ 女人高野室生寺

高田都耶子

寺の住職であつた父ですが、実は字を書くことが苦手でした。

副住職であつた頃は、書を頼まれると一旦持ち帰つて師匠である橋本凝胤(当時)に代わりを書いてもらつたのが常だつたそうで、何とも微笑ましい話です。管長さんは書をよくなさいましたし、とてもお上手でしたが、いよいよ薬師寺の住職になり、法相宗の管長となりますと、「では寺に帰つて師匠に書いてもら

います」とも言えず、断ると勿体ぶ

つているようでそれも出来ず、いよいよ困窮して自分で書くに至りました。講演会の後などにお頼まれする度「本当に僕の字でええんやろか」「紙がもつたないようや」と申し訳ない気持ちだつたと申しておりました。そして時折、「お師匠さん、あんなに厳しく仕込んでくれるならなんで字のこともつと仕込んでいくれなだらう」と恨みごとのよ

うにこぼしてました。

薬師寺住職なつた父は切羽詰まつて、友人たちと誘つて高名な今井凌雪先生の門を叩きました。先生は平城京の朱雀門の扁額や寺院のお仕事その他、黒澤明監督の「乱」「夢」「あだだよ」の題字も手掛けられました。その中に奈良の室生寺の「女人高野室生寺」という石碑があり、これは石碑を手がけた石屋さんから聞いた今井凌雪師の謙虚で真摯なお人

一口法話



「自分を知る」

誰もが自分自身のが気になる。自分のことが一番大事で過保護であります。苦しいことよりも楽しいこと、嫌なことより好きなことをしたいと思ひます。だから自分のしたいことを先ず優先し、休むために仕事を差し繰つても時間を作り準備をします。

そんな私も、実は沢山の方々を支えられています。例えば、連休に家族揃つて出かけようと、交通機関はどれが便利か、宿泊にどこの温泉にしようかなどと楽しい計画をします。しかしその楽しみは、仕事だからとはいへ、休日を返上して皆を迎えてくれる交通機関の人や宿の人たちの支えがあつてこそ楽しい思い出ができるのです。

人は一人では人でなく、二人以上集まつて人になると言われます。「人」という字が表すように二本の

誘いの書



柄が窺える逸話です。
 お願いしたものの、揮毫がいつこうに届かなくて、催促に催促を重ねた後、遂にご自宅まで伺ったのです。先生は開口一番「申し訳ありません。毎朝沐浴潔斎して机に向かうのですが、未だ満足いくものができなくて」と仰ったそのお部屋、気がつけば夥しい数の「女人高野室生寺」の書が積み重ねていたそうです。



さて今井先生に入門した父でしたが、程なくして先生から「やはりご僧侶の字を書家が直すことは出来ません」とお断りを受けたというのです。「僕には望みがないというお見立てやったんやろうなあ。あれはお断りやっつてんなあ」と寂しそうでしたが、その後先生の個展に伺ったところ、入り口近くに父の書が架けられていたそうで、「そんな殺生な」と申し上げてきたそうです。

「霊供」

故林 錦洞書

貞林院瑞正寺住職 林 清方
 これは金文書体（古代中国の文字）で「霊供」と書かれており、添え書きには「盂蘭盆会萬霊供養 庚申夏日錦洞影」とあることから、平成十二年の夏に書かれたものです。
 まもなくお盆を迎えますが、年に一度ご先祖さまが我が家に帰ってくる期間であり、このため各家庭ではお仏壇を綺麗にし

チャリテイー書展にお頼まれして出品した折に、やはり高名な榊莫山師が開催前に父の書を買って行こうとされるので、事務局の人が「先生！ 管長さんの作品は目玉なので、主催者側が先に買っては困ります」と申し上げたとか。漢山先生は「この字は真似が出来ない良い字だ」と喜んで下さっていたようです。何事にも全力で向き合った父は「僕は字は上手じゃないから、いつも一生懸命に書いた。これまで話と書の手を抜いたことは一度も無いんや」と言っていました。

棒が互いに支え合っています。右から左下に斜めになっている長い方の棒を短い斜めの棒が倒れないように支えています。これが「人」という字です。長い棒が一見支えられているように見えますが、実は短い棒の方も長い棒の重みによって支えられています。「人」は互いに支えているつもりが支えられて調和が保たれているのです。
 人は独りではなく、沢山の方々に支えられているのに、往々にしてそれに気づかないのです。どうぞ感謝を込めて、一度声にだして「な・む・あ・み・だ・ぶ・つ」と申してみてください。

て、亡くなった方々が好きだった食べ物などを毎日お供えされることと思います。またお盆とともにこの時期には盆施餓鬼を行うお寺も多いと思います。
 施餓鬼とは正に字のとおり餓鬼道に落ちた餓えて苦しむ餓鬼に対して食べ物や物を施すことです。そしてその功德をご先祖さまへの供養として、あるいは自分たちには長寿の御利益として振り向けて頂くという仏教行事です。毎年各菩提寺で行われる施餓

鬼法要では、お位牌が並べられている施餓鬼棚に山盛りのご飯や野菜などが沢山にお供えされているのをご覧になったことがあると思います。これらは全て餓鬼への施しであり、法要で称える陀羅尼や読経によりこれらのお供えが何百倍にもなつて餓鬼の空腹を満たす訳です。
 どうぞ檀信徒の皆様も各菩提寺のお施餓鬼にお出かけの際は施しのこころを持ってご参列ください。

(総本山知恩院布教師会ホームページより)

七月・八月のお盆法要

本年のお盆法要は次のとおり行います。五月のお施餓鬼と同様に今回より従来通り本堂内での法要といたしますので、どうぞご参列ください。毎年お参り頂いている月のお盆にそれぞれご来山頂きお参り下さい。

○七月お盆法要

七月十六日（日）午後二時より

○八月お盆法要

八月十三日（日）午後三時より

八月盆「お棚経参り」の中止について

*八月のお盆は毎年お棚経参りにお伺いしており、本年は地元大下・仲町地区を予定しておりましたが、実施につきましても、今年も見送りたいと思っておりますのでご了承ください。

なお新盆のお宅についてはご希望があればお伺い致しますのでお早めに寺までご連絡下さい。

令和五年施餓鬼法要の報告

毎年五月十四日は当山の施餓鬼法要ですが、今年は四年ぶりに本堂内にて布教師さんによる法話と法要を実施いたしました。令和二年冬に発生しました新型コロナウイルス感染症のため、従来のような法要が出来ませんでした。今回やっと檀信徒の皆様とともにお念仏をお称えしご先祖さまへのご供養ができましたことは大変嬉しく思います。

本年は布教師さんに念佛院ご住職の中野良平上人をお迎えし「お墓参りのころ」と題しお話し頂きました。



「布教師さんのご法話も再開いたしました」

中野良平上人は以前、数年に渡り当山施餓鬼のご法話をお願いしております。

した故中野隆英上人の義理の息子さんにあたり、現在は念佛院を継がれ先代と同じく布教師としても活躍しております。このように二代に渡りご法話を頂けるご縁にあらためて感謝する次第です。



「本堂内は大勢の檀信徒で一杯になりました」

この度の新型コロナウイルス感染症は当り前の日常生活を大きく変え、学ぶことも多かったと思います。テレワークによる仕事や授業にも限界があり、やはり人と人との触れ合いや直接会ってのコミュニケーションの大切を教えられたような気がいたします。二度とこのような感染が発生しないことを祈るばかりです。

(貞林院瑞正寺)